

長与町新図書館等複合施設設計業務公募型プロポーザル審査の概要と講評

1. 概要

令和4年12月に策定された「長与町新図書館等複合施設整備基本計画」に基づき、当該複合施設の基本設計および実施設計業務を発注するにあたり、柔軟かつ高度な発想力、設計能力を有し、最も適当と判断される設計者を特定するため公募型プロポーザルを実施することとした。

2. 審査委員会

提案者から提出された提案をもとに、下記の委員による審査委員会を組織し、優先交渉権者等の選定および特定を行った。

委員区分	分野	氏名	所属等
委員長	建築家	竹内 昌義	東北芸術工科大学教授
委員	図書館専門家	猪谷 千香	文筆家
委員	保健医療福祉専門家	大曲 勝久※	長崎県立大学副学長
委員	行政関係者	鈴木 典秀	長与町副町長
委員	行政関係者	金崎 良一	長与町教育長

※令和5年1月11日に河口 朝子から交替

- ・委嘱期間：令和4年12月16日～令和5年3月31日
- ・事務局：長与町企画財政部政策企画課新図書館等建設係

3. 日程

- 令和4年12月16日 審査委員会を設置
- 令和4年12月20日 第1回審査委員会（実施要領、評価基準等の検討）
- 令和5年1月16日 公募型プロポーザルの公告
- 令和5年1月26日 参加表明書・体制提案書に係る質問提出期限
- 令和5年1月30日 参加表明書・体制提案書に係る質問回答
- 令和5年2月13日 参加表明書・一次審査資料提出期限
- 令和5年2月24日 第2回審査委員会（一次審査）、一次審査結果公表
- 令和5年2月27日 一次審査結果通知
- 令和5年3月1日 技術提案書質問提出期限
- 令和5年3月3日 技術提案書質問回答
- 令和5年3月10日 二次審査資料提出期限
- 令和5年3月19日 第3回審査委員会（二次審査）、二次審査結果公表
- 令和5年3月20日 二次審査結果通知

4. 審査経過

・第1回審査委員会

開催日 令和4年12月20日(火) 13時～15時

場 所 長与町役場3階第1会議室(WE B会議)

議 事 (1) 実施要領等について
(2) 評価基準について
(3) その他

概 要 「プロポーザル実施要領」、「仕様書」等の公告関係書類、評価基準・審査方法について、事務局案を基に協議を行い、内容を確定した。

・第2回審査委員会

開催日 令和5年2月24日(金) 9時～12時

場 所 長与町役場3階第1会議室

議 事 (1) 一次審査
①「資格・技術力」審査について
②「業務実施方針」審査について
③一次審査の本採点、評価確定
(2) 二次審査について
(3) その他

概 要 参加表明があった41者について、書類審査を行った。

「資格・技術力」審査については、提出書類を基に事務局が作成した評価案を確認し評価を確定させた。また、「業務実施方針」評価については、委員同士による意見の交換や疑義の確認を行った後に、各委員が評価を行い、全委員の合計評価点により、上位5者を一次審査通過者に決定した。

また、二次審査の実施方法に関して、事務局案を基に協議を行い決定した。

(一次審査通過者 ※順番は参加表明書受付順)

ジオ-グラフィック・デザイン・ラボ

有限会社マル・アーキテクチャ

株式会社スターパイロッツ

株式会社 PERSIMMON HILLS architects

INTERMEDIA・SUEP 設計共同企業体

・第3回審査委員会

開催日 令和5年3月19日(日) 9時～16時15分

場 所 長与町民文化ホール

- 議 事 (1) 二次審査の進め方について
(2) プレゼンテーションおよび対話審査
(3) 二次審査評価確定
(4) 審査結果発表・講評

概 要 二次審査の実施方法、プレゼンテーション審査等における審査委員の役割等について事前に確認した。

その後、プレゼンテーションおよび対話審査において、5者から提出された技術提案書について、それぞれ30分のプレゼンテーションを行ったあと、5者全ての参加によるディスカッション形式の対話審査を行った。

プレゼンテーションおよび対話審査の終了後、審査委員会による会議を行い、委員同士による意見の交換や疑義の確認を行った後に、各委員が評価を確定させ、全委員の一次審査と二次審査の合計評価点が最も高い1者を優先交渉権者として、2番目に高い1者を次点に特定し、発表した。

5. 審査結果

優先交渉権者：株式会社スターパイロツツ

次点交渉権者：INTERMEDIA・SUEP 設計共同企業体

順位	点数
優先交渉権者	370.70 点
次点	336.90 点
3 位	333.00 点
4 位	319.50 点
5 位	306.00 点

(3位以下の社名は非公表)

6. 審査講評

各提案は、いずれも創意工夫が見られ、大変優れた内容でした。短い提案期間にも関わらず、完成度の高い提案となっており、各社の努力の跡が伺えるものばかりでした。

当複合施設は、図書館と健康センターを含む複合施設であることから、それぞれの機能を果たすことに加え、両者の融合によりさらに魅力を高める仕掛けが求められています。

また、脱炭素社会における環境的配慮やコスト縮減、工程管理に対する意識についても施設整備を行う上で重要なテーマであると考えています。

審査委員会では、次の評価基準に基づいて評価を決定しました。

評価基準表

一次審査（書類審査）

区分	評価項目		評価の主なポイント	配点
一次審査	体制評価	資格	各主任担当技術者について、保有資格により審査を行う。	5
		技術力（業務実績）	<p>業務遂行にあたり有効な経験・実績を有しているか。</p> <p>平成19年度以降の同種又は類似業務の実績について①～④のそれぞれの観点から評価する。</p> <p>①同種業務の実績がある ⇒複合施設の実績がある。</p> <p>②類似業務の実績がある ⇒図書館、健康センターに類似する業務実績がある。</p> <p>③九州圏内での実績がある。（長崎県内での実績の場合高評価とする。）</p> <p>④受賞歴がある。</p> <p>上記に加え、業務実績の立場を下記の順で評価する。</p> <p>●管理技術者の場合 ア管理技術者又はこれに準ずる立場 イ主任担当技術者又はこれに準ずる立場 ウ担当技術者又はこれに準ずる立場</p> <p>●主任担当技術者の場合 エ管理技術者又はこれに準ずる立場 オ主任担当技術者又はこれに準ずる立場 カ担当技術者又はこれに準ずる立場</p> <p>上記の評価方法で、最大4つの実績から、①～④に該当する評価点をそれぞれ抽出し、実績時のア～カの立場を踏まえた評価とする。</p> <p>（例：実績 i ①②③ア該当、実績 ii ②④イ該当、実績 iii ①③④ウ該当、実績 iv ④ア該当の場合⇒①ア、②ア、③ア、④アの評点となる。）</p>	10
	業務実施方針	・技術提案を行うに十分な多様性を有するチーム	20	

		<p>やプロジェクトが有機的な体制として準備できているか。</p> <p>①実働する人員の配置について十分な人数及び遂行能力が担保できているか。</p> <p>②図書館または健康センターへの精通度が高いと判断できる資格または実績を有する者がいる</p> <p>③業務プロセスにおいて、町民の思いを汲み取り、将来のニーズを抽出していくことが可能な場や手法を提示できているか。</p> <p>・業務体制と技術提案骨子が実現性を帯びた提案となっているか。</p> <p>テーマ①求められる各機能（ハード・ソフト）と機能融合について</p> <p>テーマ②脱炭素社会における建築の環境的配慮について</p> <p>テーマ③コスト削減および工程管理に対する意識について</p>	
一次審査小計			35

二次審査（プレゼンテーションおよび対話審査）

区分	評価項目		評価の主なポイント	配点
二次審査	技術提案 評価	テーマ①求められる各機能（ハード・ソフト）と機能融合について	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館機能を維持するにあたり、有効な配置および提案がなされているか。 ・健康センター機能を維持するにあたり、有効な配置および提案がなされているか。 ・交流スペースにおいて、各機能との融合や活発な利用が想定される配置および提案がなされているか。 ・求められる諸機能（外構や法面利活用等を含む）の融合を実現し維持する手法についての的確な提案がなされているか。 ・この先の時代変化にも対応することが可能な柔軟性を持った提案となっているか。 	25

		テーマ②脱炭素社会における建築の環境的配慮について	<ul style="list-style-type: none"> ・土地の性質や成り立ちを理解した長与らしさを体現する空間提案となっているか ・ZEB に向けてのエネルギー活用について有効な提案となっているか。 	10
		テーマ③コスト削減および工程管理に対する意識について	<ul style="list-style-type: none"> ・工事に対するイニシャルコスト、ランニングコストを含めたライフサイクルコストの削減を意識した提案となっているか。 ・各フェーズでの問題点を把握し、R9.4 開館を見据えた適切な設計計画および工事計画となっているか。 	10
プレゼンテーションおよび対話内における評価		コミュニケーション能力評価	<ul style="list-style-type: none"> ・今後の業務に対して、的確かつ柔軟な応答ができていますか。 ・あらゆる可能性を想定したコミュニケーションができていますか。 	10
		取組意欲評価	<ul style="list-style-type: none"> ・本業務に対する取り組み意欲が示されているか。 ・業務に対して積極的に対応できる体制が組み込まれているか。 	10
二次審査小計				65
一次審査・二次審査合計				100

体制提案については、施設建築に携わる技術者に加えて、図書館や健康センターをデザインし運営していく上で貢献できる様々な人物を配置したユニークな設計チームが見られたことが印象的でした。また、住民参加の施設づくりを行っていくことについては、各社とも積極的で、多くの方法によるアプローチでパートナーをつくり、皆でつくりあげる過程を重視していく姿勢が見られたと思われまます。

技術提案については、趣向を凝らした意匠や周辺との機能連携、賑わいの創出を図るアイデアなど多様な提案が出されました。また、エネルギーコストを意識した提案が多く提出されましたが、一方ではその実現性や根拠に関しては不十分な提案も見られました。

【個別講評】（一次審査通過 5 者 プレゼンテーション審査順）

1. 株式会社 PERSIMMON HILLS architects

三角形の形状の中心に交流広場を設けるユニークな形状の建築です。1 階に健康センター、2 階に図書館を配置し明快にゾーニングすることで、管理のしやすさを図っています。面白い提案でしたが、動線や見通しあるいは土地利用において、三角形というのが無駄なスペースを生むという指摘もありました。長与町は斜面地が多く、建物に使える面積が少ないなか

での有効活用を目指す必要があります。また、健康センターについては、やや調査不足が感じられる発表内容でした。

2. INTERMEDIA・SUEP 設計共同企業体

コの字型の建物の中央に屋内・屋外広場を設けることで、賑わいをつくり出す仕掛けが特徴的な提案でした。現代の図書館をよく表現されていて、モビリティもしっかりと考えられています。地域の方とも連携しながら、個別に丁寧に答えていく姿勢が良かったです。また、長崎の企業として長崎の良さを出そうとした点も評価できます。西田公園への遊歩道も好印象です。図書館については、死角が多く長い間取りでカウンターから見えないので、十分な職員配置が必要になると思います。健康センターに関しては言及が少なく、分かり難かったのが残念です。下足をどこでするのかという問題がありました。屋内広場も考えると一番表面積が大きく、エネルギー効率の面で懸念がありました。

3. 株式会社スターパイロッツ

技術提案書では、耐火木造、2階建てのシンプルな構成の案ですが、町全体を大きくとらえ、敷地内に道をつなぎ敷地全体が大きな交差点となっている点が面白いと思います。コンパクトでありながら機能的にも無理がなく、奇をてらってなく、動線的には管理がしやすいと予想されます。外構で交流の場所もあるという点も良いです。図書館に関しては「世界の入口」という表現を頂きましたが、周辺他の館と連携しながら、ここだけの図書館という、長与町での図書館の可能性の追求を頑張っていたいただきたいと思います。健康センターについては、共通スペースと融合するという部分でメリットが弱い部分がありました。ごろごろ芝生広場と2階の子どものスペースを併せると良いのではという意見もありました。

ZEBに関しては最もやる気が見られ、エネルギー効率も有利でした。PerfectZEBを目指すとしており、2050年のゼロカーボンを目指してぜひ頑張っていたいただきたいと思います。

長与町のランドマークとなるよう提案の実現に向けて、今後さらに町民の意見を十分に取り入れて内容に磨きをかけていってほしいと思います。

4. 有限会社マル・アーキテクチャ

図書館と健康センターを外側と内側でつなぐ入れ子構造で、3棟に分節された切妻屋根はデザイン性が高く、非常に素晴らしい空間提案をいただきましたが、建設費用が最も掛かるのではないかと懸念がありました。空調コスト、メンテナンス費用も高いものになると考えられることに加え、人件費が大きくなる可能性もあります。図書館に関しては、ベテラン図書館長アドバイザーを加えるなど良いチームを組んでいます。移動図書館を含めた導線の検討や死角が多いことについては、やや考慮が不十分な点を感じられました。入れ子構造は面白いですが、健康センターが中心にあるのは、使い方や管理の面で懸念があります。また、書庫作業室、閲覧室、グループ学習室が2階にあることについては、死角がで

る点が懸念点となりました。

5. ジオ-グラフィック・デザイン・ラボ

自治体と連携したり、地域に溶け込んで色々なことをやったりしている点が評価できます。よく勉強していると思います。また、法面をうまく活用した地下室の設置は、隠れ家的な空間をつくる面白いアイデアで、子どもの利用を考慮した施設という点も良かったと思います。しかし、スタッフの死角になる点で懸念がありました。健康センターに関しては、健診に来た人の導線が見えないことが気になりました。健康関係で不安を抱えている方や小さな子どもなどに対する配慮についてはやや不足が感じられます。地下を作ることについては、基礎などコストが高くつくほか、水の対策に関する問題点が指摘されました。

全体を通して、これから建設する建物は2050年まで確実に脱炭素、すなわち使うエネルギーと作るエネルギーがバランスする、いわゆるゼロエネルギービルであるべきと考えます。制度上、存在している nearly ZEB などは温暖化対策への寄与が少ないと考えます。未来の世代にとってより良いギフトを目指して参りましょう。

最後に、本プロポーザルにご参加いただきました各社をはじめ、関係者の皆さまに対して、心から感謝申し上げます。

令和5年3月31日

長与町新図書館等複合施設設計業務公募型プロポーザル審査委員会
委員長 竹内 昌義